

2011年11月14日

掛川市議会議長 竹嶋善彦様

陳情者  
掛川市民有志  
連絡先：戸倉由紀枝

## 浜岡原子力発電所の再稼働時に関する条件 と原発に頼らないまちづくりに関する陳情書

### 陳情の要旨

1. 浜岡原子力発電所の再稼働時に関する四つの条件の付加
2. 原発に頼らないまちづくり

### 陳情の理由

#### 1. 浜岡原子力発電所の再稼働時に関する四つの条件の付加

これまで国と電力会社は、原子力発電所は安全だと言い続け、私たち市民もその言葉を信じてきました。しかし、東日本大震災で、福島第一原発事故は爆発事故を起こし、事故から8ヶ月が経ちましたが、未だ事故は収束しておらず、その原因はまだ究明されていません。福島第一原発20キロ圏内は警戒区域となり、住民は避難を余儀なくされ、放射線量は高いままで帰宅のめどさえ立っていません。

放射性物質は福島第一原発から放出され、福島県内外の農水産物から検出されています。静岡県内でも茶、しいたけなどの農作物から国が定める暫定基準値以上の放射性物質が検出され、出荷停止となりました。原発は、事故が起きた場合、火力、水力とは比べものにならないほど被害規模が大きく、人々から故郷、仕事、健康を奪ってしまう可能性があります。

現在、浜岡原発は運転停止をしていますが、使用済み核燃料は6,625体、低レベル放射能廃棄物はドラム缶で35,766本が、今も浜岡原発内にあります

(2011年2月28日現在)。<sup>1</sup> 福島第一原発4号機が運転停止中にも関わらず爆発事故を起こしました。そのため、運転停止中であっても、東海地震が発生した場合、浜岡原発は事故を起こさないのだろうか、私たち掛川市民は不安な日々を送っています。

中部電力は、津波対策であるコンクリートの防波堤の完成後に、浜岡原発を再稼働することを予定していますが、東日本大震災では、幅20メートル、高さ8メートルの堤防が津波で流されるなど<sup>2</sup>、堤防が津波を防ぐことができるかどうか心配です。また、福島第一原発事故の冷却装置の電源喪失に関しては、まだ解明されていないことも多く、私たち掛川市民は、浜岡原子力発電所の再稼働については非常に不安を感じます。また、「想定外」という言葉があるように、この世に確実な安全対策はないように思われます。

浜岡原子力発電所の再稼働の条件は、津波対策を行うだけではなく、以下の四つの条件を満たすまでは、掛川市議会として再稼働を認めないで下さるようお願いいたします。また、条件が満たされないことがわかった場合は、廃炉について国、県、中部電力への提言をご検討下さるようお願いいたします。

- (1) 福島第一原発事故が収束後、事故の原因が究明されること
- (2) 原発で働く人たちと地域住民にとって、想定外という状況がないよう確実な安全性が確立されること
- (3) 国と地方自治体の原発に関する安全指針が統一されること
- (4) 原発立地・周辺自治体及び住民から了解が得られること

## 2. 原発に頼らないまちづくり

風力、太陽光、小型水力など、地産地消の自然再生エネルギーの発電設備の導入をし、原発に頼らないまちづくりをして下さるようお願いいたします。掛川市に自然再生エネルギーの発電所を建設することで、新たに雇用が生まれます。電力だけでなく経済ともに原発に頼らないまちづくりをして下さるようお願いいたします。

浜岡原発で働く人たちを含めた市民が、放射能におびえることのない安心して暮らしていける掛川市を、私たち市民とともに作って下さるようお願いいたします。

---

<sup>1</sup> データ出典：中部電力（株）HP、プレスリリース 浜岡原子力発電所の2011年度新燃料等の輸送予定について2011年3月31日 2 使用済燃料プール内の使用済燃料の貯蔵状況、3 低レベル放射性廃棄物の貯蔵状況 [http://www.chuden.co.jp/corporate/publicity/pub\\_release/press/3153621\\_6926.html](http://www.chuden.co.jp/corporate/publicity/pub_release/press/3153621_6926.html)

<sup>2</sup> データ出典：YOMIURI ONLINE ジャンボ機250機分の波、世界一の防波堤破壊(2011年3月21日) <http://www.yomiuri.co.jp/science/news/20110320-OYT1T00777.htm>